

ンク・カバーにてこの柄に接し、タンク・カバーを開くことによって、ロックが解かれる。これは、アンロック・パイプがタンク・カバーにてここに押し当てられている間だけタンク・カバーが開いているのだから、いかなる場合にも給油ピストルのそばにアンロック・パイプを、給油ピストルとは別に用意しなければならない、ということの意味する。これは更に、非常に特殊な給油装置を必要とするということ、および、種々の自動給油方式をこのようなキャップと組み合わせて用い得るようにすることは不可能であるということ、を意味する。

#### 【0004】

##### 【発明が解決しようとする課題】

しかし、多様な自動給油方式を上記のようなキャップと組み合わせて用い得るようにキャップを構成することはぜひとも必要であるので——石油業界が標準型の給油方式を導入する見込みはないので——、本発明の課題は、始めに挙げたような種類の自動車の燃料タンクの燃料注入管のキャップを、外からちょっと突くだけでロックを解くことができ、同様にちょっと押し込むだけで再び密着状態でロックしてシールすることができるように形成することである。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、本発明では次のような配慮がなされる。第一に、給油管のシールされるべき開口部は、該給油管のほぼ円筒状の拡張部の内端において内側へ段付き部を形成するように設けられており、第二に、タンク・カバーの内側にスリーブが固定されている。このスリーブの内部には、シールされるべき開口部にかぶせられるパッキングを備えたピストンが、軸方向に摺動可能にはめ込まれている。前記パッキングが軸方向の圧力を受けると、鎖錠部分が半径方向に外側へ広がって、給油管の円筒状の拡張部の内端に設けられた溝に嵌入する。スリーブの内部におけるピストンの支持構造は、一度押し込むとロックし、更にもう一度押し込むとクリアするキー・スイッチに似ているので、鎖錠部分が溝に嵌入している状態でタンク・カバーを押し込むとスリーブはタンク・カバーと共にピストンに対して外側へ相対的に移動し、鎖錠部分を溝から離脱させる。

#### 【0006】